

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山小学校】

⑥ 次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 一定の成果はあるものの、学習の定着内容に偏りが見られる部分があるため、スタディサプリやドリルパーク等のアプリを活用した反復学習で、より定着が深まる活用の仕方を模索しながら、学習履歴を効果的に活用し、個々の学力を高めていく。 個に応じた指導を充実させるため、SA等少人数指導を効果的に配置するとともに、学年内での少人数指導についても方策を検討していく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学校課題研究を深め、「学びのポイント『じ・し・や・く』」を意識した授業改善を行い、協働的な学習を進める中でこの資質能力を高めていくようにする。 振り返りや単元のまとめとして、自分の考えを言語化する活動を意識的に取り入れるようにしてきたことは、一定の成果を上げている。今後も継続した指導を行っていくことで、さらにその力を高めていくようにする。

① 今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、R6市学習状況調査では、国語の「言葉の特徴や使い方に」に関する事項において定着度が若干課題がみられた。</p> <p><指導上の課題> 定着度に個人差があり、児童個々への対応を効果的に進め、定着度の差をできるだけ少なくしていく必要がある。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> スタディサプリやドリルパークなどを活用し、課題に関連した問題に繰り返し取り組む機会を設ける。【業前学習、家庭学習等で実施】 スクールダッシュボードの学習履歴を活用したり、SA等による個別指導を行ったりするなど、学習の個別最適化を図る。【1月以上指導方針を確認】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> R6市学習状況調査では、国語の「話す・聞くこと」において課題が見受けられ、思考を深めるためにも資質の向上が必要である。</p> <p><指導上の課題> 学校課題研究のテーマである「自ら考え、協働的に学ぶ児童の育成」を目指して、児童が主体的に学習に取り組めるような学習過程をより一層充実させる必要がある。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の中にICTでの共同編集を位置付けたり、小集団での話し合い活動を取り入れたりするなど、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。【単元ごとに確認・学校課題研究に係る学年・ブロックでの振り返り等での確認】

⑤ 学力向上策の実施状況	
知識・技能	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> スタディサプリやドリルパーク等の反復により、習熟が深まる部分とそうでない部分があり、学習内容の定着に偏りがある。学習履歴の活用も児童の取組の様子によって、十分に活用できない場合があった。 SAの適切な配置により、個の指導に割く時間が増加し一定の成果があったものの、全学級に定期的に配置することが難しいため、活用に課題が残る。
思考・判断・表現	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校課題研究を通して、「学びのポイント『じ・し・や・く』」を意識した授業改善を行ってきており、協働的な小集団の中で個の資質能力も高まりつつある。 ノートやクラウドに振り返りを蓄積していくことで、自身の考えを言語化する力を高めようとしてきたが、定着までしばらく期間が必要だと感じる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>全ての教科において、全国及び県の平均正答率を上回っている。算数では通分に関する理解に課題が見られ、単位数のいくつかが数直線に示す問題では正答率が50%を下回っており、概念の理解と習熟が必要である。理科の身の回りの金属の性質を分類する問題では正答率が10%を下回っており、金属の性質を混同しないよう実験で試行する回数を増やし、既習事項を丁寧に振り返るなどの工夫が必要である。また、課題のある問題が記述式であることから、考えを言語化する活動を継続して取り組ませるようにし、資質・能力を高めていきたい。</p>
思考・判断・表現	<p>全ての教科において、全国及び県の平均正答率を上回っている。国語では目的に応じて文章と図表を結びつけるなど、必要な情報を読み取ることに課題が見られた。算数では、目的に応じた適切なグラフを選択し理由を記述することに課題があった。また、理科では発芽させるために必要な条件について、共通点・差異点から問題を見出すことに課題があった。複数の資料を比較したり、関連付けたりして考える活動を意識して取り入れていくことで、資質・能力の向上を図りたい。</p>

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>全体的には市平均と同等もしくは上回っている学年が多かったものの、部分的に課題が見られる内容もあった。まず、国語における言葉の使い方にに関する事項で、主語述語・修飾語被修飾語の関係理解に課題が見られた。また、算数における変化と関係の内容について、基準量と比較量に着目した立式等に課題が見られた。社会科では地理的環境と人々の生活について、正しい理解が定着していないという課題が見られた。</p>
思考・判断・表現	<p>全体的には市平均と同等もしくは上回っている学年が多かったものの、部分的に課題が見られる内容もあった。まず国語における書くことにおいて、文体を使い分けたり自分の考えが伝わるよう表現を工夫したりすることに課題があった。また、算数におけるデータの活用の内容について、正しくグラフを読み取ったり、その特徴を捉えたりすることについて課題があった。社会科では、現代社会の仕組みや働きと人々の生活について、その努力や工夫への気づきが不十分である等の課題が見られた。</p>

③ 中間期報告		中間期見直し
	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初に昨年度の課題と改善策を周知し、各教科でそれを意識した指導を行っている。また、学びのポイント『じ・し・や・く』に基づく授業改善について、学校課題研究で取り組んでおり、ICTの効率的な活用を中心に据えた個別最適な学習を通して、個々の資質能力を高めている。 	<p>変更なし</p>
思考・判断・表現	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科での毎時の振り返りや単元のまとめ等、目的に沿って自分の考えを言語化する活動を取り入れ、クラウド等で蓄積する学習を行っている。目的や意図に応じて自分の考えをまとめる力を身に付けることで思考が深まり、協働学習にも生かされている。 	<p>変更なし</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)